

■2009年度のレビュー

世界的な不況の影響を受けたり、コーポレーションの売上減(前年度比△3.6%)にともない、グループ全体の統合環境影響は前年度比4.9%減少という結果になりました。右図表下の棒グラフに示されるように、ほぼ全ステージにおいて環境影響が減少しています。16次環境行動計画(2008～2010年度)では、従来の資源循環量拡大の取り組みや環境技術開発の強化に加え、お客様先での省エネ機能、両面コピー機能の利用率の向上を重点課題として取り組みを進めており、これらの成果も着実に出てきています。例えば、使用ステージでの紙削減活動では、リコー独自の遠隔サポートサービスを活用し、お客様使用時の環境影響を「見える化」して削減につなげる活動を進めています。この活動の中で、お客様の紙削減の実態が明らかになり、具体的には、30万台以上のデジタル複合機(MFP)のデータに基づいた分析結果を紙消費量の推計モデルに適用しています。

(新規事業、開発途上国の取り扱い)

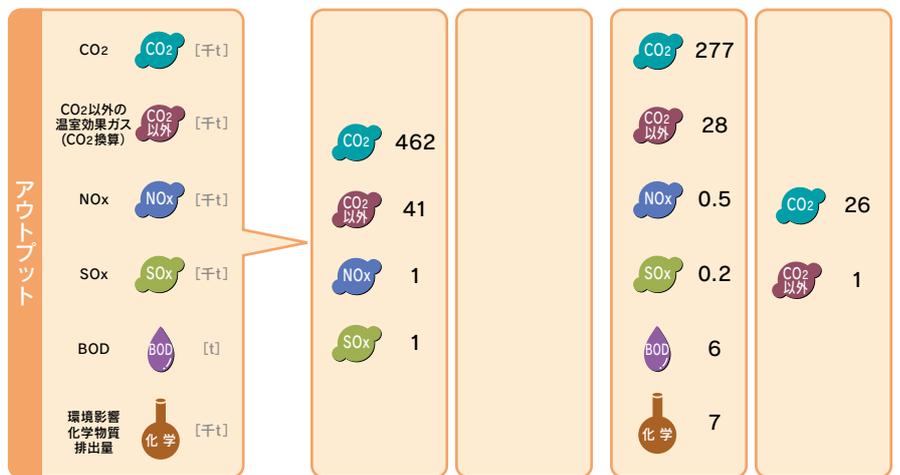
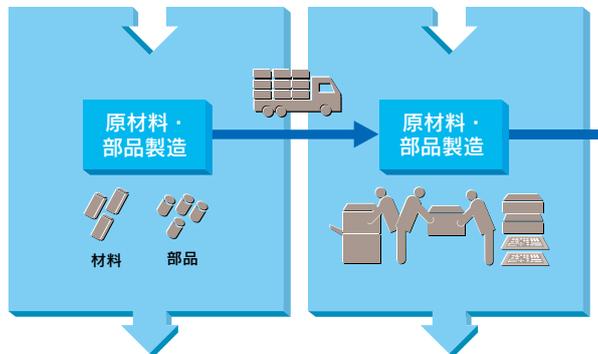
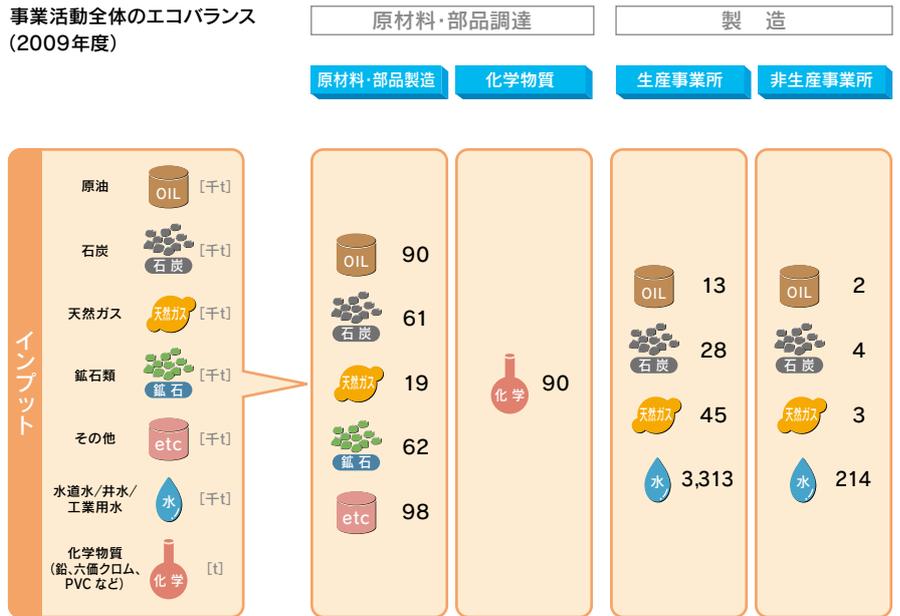
「事業活動全体のエコバランス」の評価範囲には、2000年度以降のM&Aなどの新規事業や新興国、開発途上国を含め、グループ全体の環境影響を評価対象としています。これに対して、5ページの「統合環境影響の推移(先進国向け事業)」では、2000年度を基準とした比較を目的とするため、新規事業、新興国・開発途上国の環境影響を除いて示しています。

※ LCAデータ、評価方法の変更について

●LCAデータ

インベントリ分析用データは、LCA日本フォーラムが公開しているJLCA-LCAデータベース(2006年度第2版)をベースに、みずほ情報総研(株)様にシステム境界の拡張、欠落データの補充等のデータ整理を実施いただいたものを利用しています。

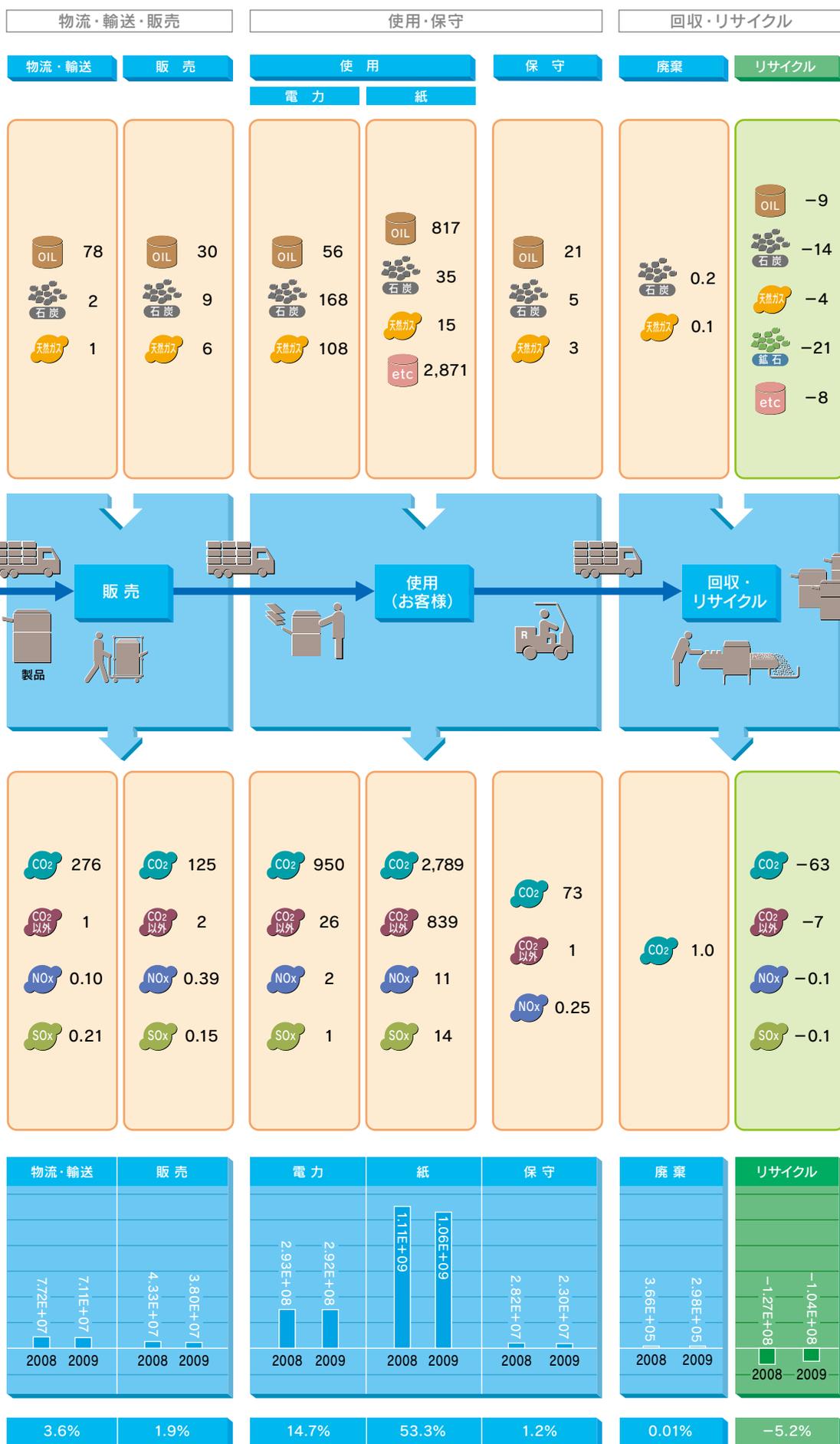
事業活動全体のエコバランス (2009年度)



事業活動の環境影響を統合化した数値

単位: ELU





「E+n」は「×10ⁿ」を意味します。例) 1.45E+08=1.45×10⁸